

## 危険な垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイの配備及び低空飛行訓練計画の撤回を求める決議

アメリカ空軍のCV 22 オスプレイが、(現地時間13日) アメリカ・フロリダ州のハールバート・フィールド空軍基地で訓練中に墜落し、5人の兵士が負傷した。2010年4月、アフガニスタンの戦場において着陸時の事故で乗員や兵士など4人が死亡、本年4月にもモロッコで訓練中に墜落し2人が死亡、2人が重傷を負っており開発段階からの墜落事故はこれで8回目となっている。

このような状況下、日米両政府は沖縄県宜野湾市の米海兵隊普天間飛行場に本年7月中にも垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイ24機を配備しようとしている。政府は13日、米側が実施した環境審査の結果を沖縄県に報告し、「MV 22 オスプレイの配備および運用の実施においては、いかなる重大な環境問題も生じないことを確認した」と結論付けている。さらに報道によれば、キャンプ富士(静岡県御殿場市)と岩国基地(山口県岩国市)においても毎月2、3日間、MV 22を2～6機派遣し訓練を実施。両基地への派遣は「人道支援や災害救援支援への対処訓練のため、より長期の展開となることもある」としている。

しかし、墜落事故続きの危険なオスプレイの配備は沖縄県民をはじめ、低空飛行の飛行ルートとされる全国の自治体に不安と恐怖を与え、断じて許すことはできない。深刻な被害をもたらすオスプレイの配備計画は、即刻中止すべきである。

よって、本市議会は危険な垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイの配備及び低空飛行訓練計画の撤回を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成24年6月25日

内閣総理大臣  
総務大臣  
外務大臣 あて  
防衛大臣  
駐日米国大使

座間市議会